

「先導的な学びを推進する学校」とは？

適正規模（1学年2学級以上）を確保することで、これまで少人数では難しかった教育活動を行うことができます。
この新しい学校は、次のような5つの柱で構成されています。



1. 子どもが主語の授業
(学習者主体の学び)



2. 中央地区全体を学びの
フィールドとした探究学習



3. 中央地区ならではの
ICT教育



5. スクール・コミュニティ:
地域が学校教育に参画



施設は未定です
絵はあくまでもイメージですのでご了承ください

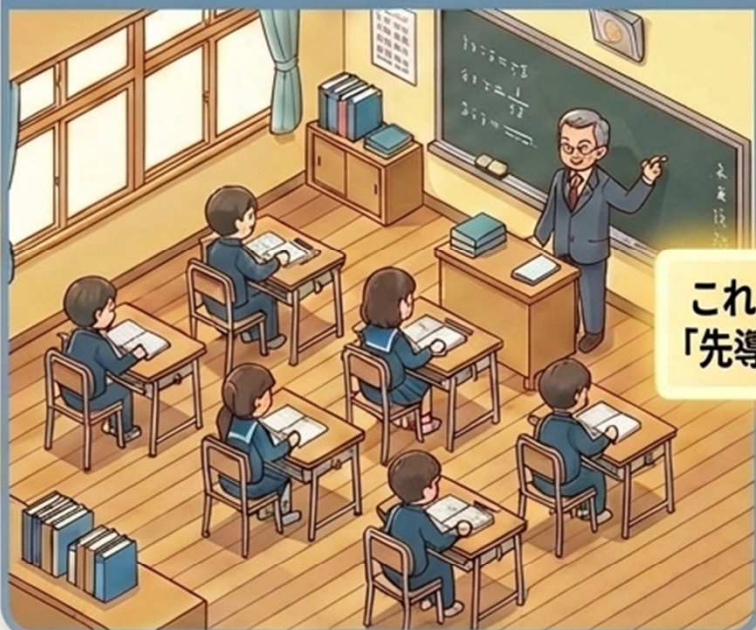


4. 学社融合機能をもつ施設
学校施設の有効な利活用

【柱1】教えられる場所から、自ら「やってみる」場所へ

教師主導の授業から、子どもが「主語」となる授業、探究学習を核とした教育課程を実践する学校へと発展させます

従来の学び（これまで）



これまでの学びを土台に
「先導的な学び」に発展へ

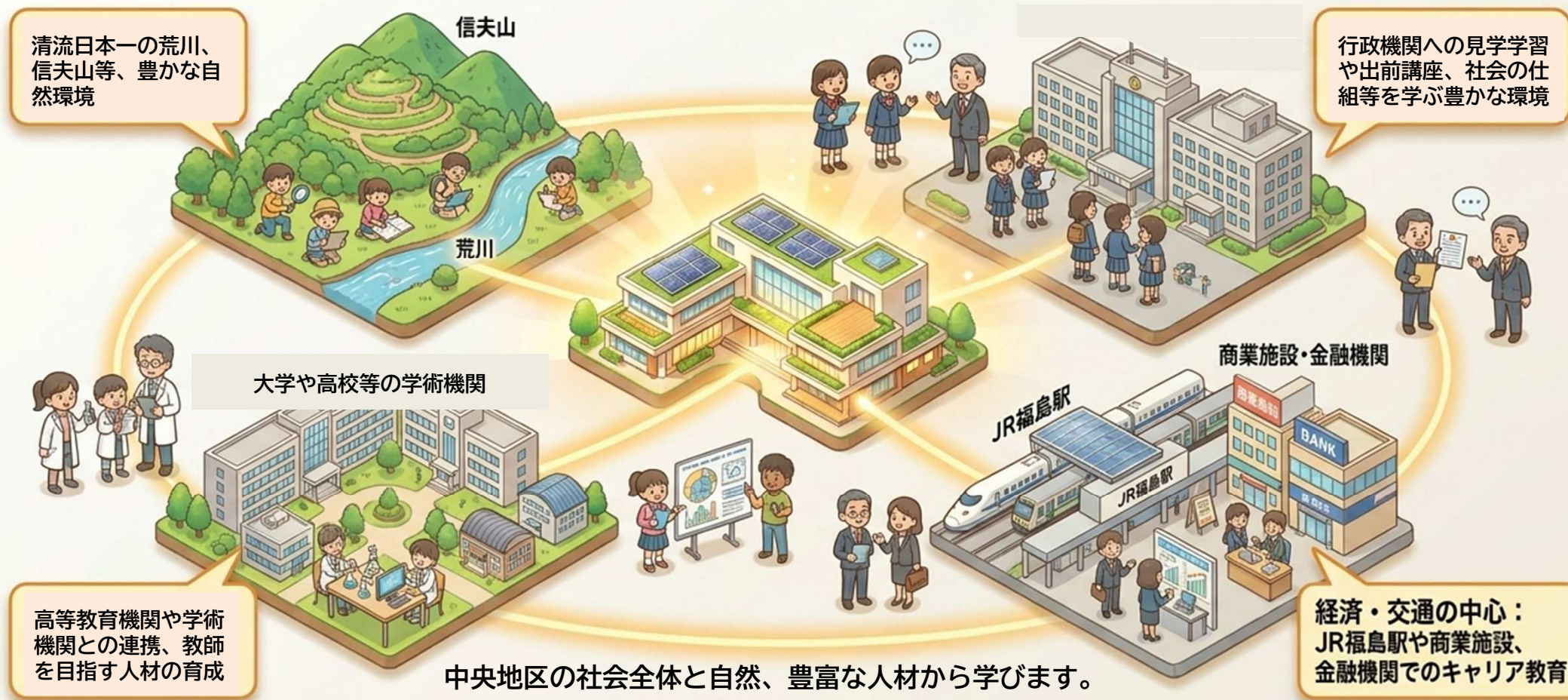
先導的な学び（これから）



- 子どもの「やってみたい」が起点
- 仲間との対話と協働
- 多様な価値観に触れながら自分で選択し、探究していく学習

【柱2】 中央地区のすべてが、最高の「教材」になる

中央地区には、他地区にはない教育資源が集約されています。
これらを十分に活用するという意味で「中央地区全体を学びのフィールド」にした学習を展開します。



【柱3】GIGAスクール構想を基盤とした「中央地区ならではのICT教育」

一人一台の学習者用端末を使いこなし、個別最適な学習や協働学習により未来社会を生きる力を育成します。



※ GIGAスクール構想・・・1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する（文部科学省）

松陵義務教育学校の例



課題別グループに大学生ボランティアの支援

水原クマガイソウの調査



次世代サミット

【柱4】 学校と社会が溶け合う「学社融合」機能を追加した施設

学校は子どもだけのものではありません。授業に支障のない範囲で施設を地域に開放し、多世代が交流できる新しい形の公共空間を整備します。

地域に開かれた特別教室
放課後や休日の家庭科室を活用した「地域料理教室」や、音楽室・体育館での生涯学習・スポーツ活動。

(例)

- ・ 学校施設の稼働率向上
- ・ 地域の方々が子どもたちの学習支援
- ・ 学校図書館の一般利用

絵はあくまでイメージであり、学校施設は未定です。

学社融合のイメージを紹介するものですのでご了承ください。

【柱5】地域とともに学び合う「スクール・コミュニティ」

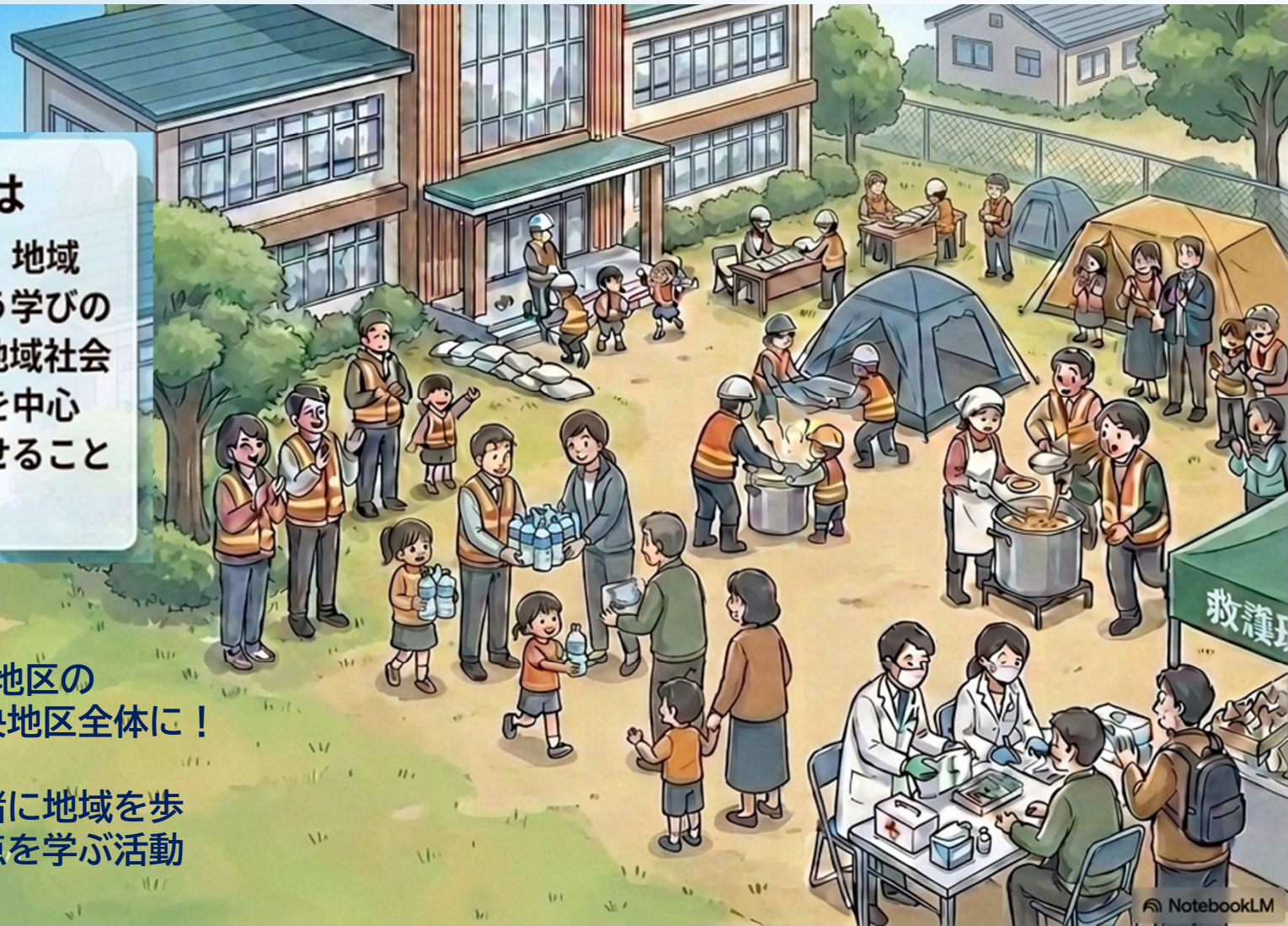
スクール・コミュニティとは

学校を核として地区住民や保護者、地域全体が結びつき、互いに協力し合う学びの共同体を指す考え方です。学校と地域社会が分断されるのではなく、子どもを中心として学外と学内の教育を融合させることを目指します。

(例)

8.5水害を機に行われてきた清明地区の「防災フィールドワーク」を中央地区全体に！

子どもたちが地域の人々と一緒に地域を歩きながら、危険箇所や防災拠点を学ぶ活動





その土台の上で、未来のふくしまを共に描こう。

長い歴史のなかで深く耕されてきた中央地区の豊かな教育資源。

その強固な土台の上に立ち、子どもたちが

未来を拓く力を健やかに育むための、前向きな挑戦です。

中央地区の、そして福島市の新しいランドマークとなる学校を

一緒に創り上げましょう。

